

人と土地をつなぐ智里東農事組合法人

小松 勝文 (智里東農事組合法人・組合長)

1 地区の概要

智里東地区は250戸800人が生活し、1戸当たりの耕地面積は45アールの兼業農家群である。昭和30～40年代にかけて若者が都会に流出し典型的な過疎地となる。又、村の積極的な工場誘致施策により、兼業化が更に進行し、加えて養蚕の衰退により広大な遊休荒廃農用地を抱えている。

2 動機及び経緯

Uターンしてみたら、遊休荒廃農用地が拡大し産業もなく、地域に活力がないことに驚かされた。

そんな時に第三小学校も児童人口が減少し、学校統合問題が持ち上がり地域を活性化させるにはどうしたら良いか知恵を出し合った。

その結果、まず地域に自分たちの産業を起こし、Uターン及び脱都会派を受け入れ、児童人口増に結び付けると共に、生涯の仕事と良い仲間を持つことで心豊かに生きて行こうと考えがまとまった。

これらの経過から昭和56年に12名の若者により『ひがし会』を結成し、昼神温泉朝市に始まって、昭和58年漬物、味噌、菓子製造業許可のある加工センター建設、昭和59年昼神温泉朝市組合設立、昭和61年智里東農事組合法人と発展して来ており、遊休荒廃農用地の活用から農業生産、農産物加工販売のラインを築き地域の活性化に大いに貢献し高く評価されている。

3 法人の状況及び雇用状況

- (1) 資本金 9,950千円
- (2) 雇用状況

雇用	人数	労働日数
正職員	19人	1人当たり 229日
パート	9人	年間 2,061日

- (3) その他

- ・智里東農事組合法人 組合員数44名
- ・昼神温泉朝市組合 加入者 65名

4 資本装備状況

種類	規格規模	数量
加工センター	延140㎡	1棟
食堂兼直売所	140㎡	1棟
「ひるかみ」		
そば道場兼直売所	90㎡	1棟
「おんびら」		
農 場		
りんご	130 a	
桃	10 a	
ブルーベリー他	10 a	
長 葱	47 a	
赤 し そ	3 a	

5 経営の概況

- (1) りんご、柿、その他果樹及び野菜の生産
- (2) 餅、漬物、そば、うどん等の加工
- (3) 朝市での販売
- (4) 食堂、直売所の経営
- (5) 他地区との交流（尾張旭市、岩村町、名古屋勤労者市民生協）
- (6) 各種イベントへの参加
- (7) 都会地の消費者に農園を提供し、農業、自然、文化、教育の交流を図る。（市民農園）

6 経営の変遷

農事組合法人設立後の販売実績

下段〔表〕参照

7 経営のポイント

- (1) 農業生産→農産加工→販売まで全て農事組合で行うことにより、老若男女の就業確保が実現するとともに付加価値増となる。
- (2) 都会からの移住組4家族により児童人口増、複式学級の解消
- (3) ヒット商品（ただいま恋愛中、愛情こんにゃく、伊那乙女等）続出する。
- (4) 業務体制を明確にし、オープンな経営。
各専門部ごとにスタッフを配置し、業務運営を行っている。
農園部1名、加工部4名、商品管理部2名、販売営業部3名
食肉製品製造部1名、ひるかみ部6名、お

んびら部11名

- (5) 遊休荒廃地の活用、農業意欲の高揚を図る。

8 問題点及び今後の課題

- (1) 加工原料の地元確保が3割程度に過ぎない。
- (2) 組合所有の加工施設が手狭になったため、委託加工部門が多くなっており早急に加工施設、貯蔵施設等の拡充強化が必要である。
- (3) 新しい特産品を開発研究する人材や施設の確保が必要。
- (4) 販売部門の独立。

9 今後の抱負

朝市、直売所2カ所の経営に加え、食堂、喫茶店、加工施設の一体化した物を平成6年に完成させ4本目の柱を築いて、地域農産物の利活用促進を図り、更に女性の感性をも取り入れた経営を進めて行きたい。

区 分	販売金額（千円）	主 な 動 き
昭和61年販売実績	35,000	村おこし事業で加工センター充実
昭和62年販売実績	45,000	「ひるかみ」オープン
平成元年販売実績	180,000	「おんびら」オープン
平成4年販売実績	375,000	ヒット商品、本物志向で客定着
平成5年販売実績	440,000	「おんびらん」設置、市民農園開始